



水道技術者ブロック別研修会（札幌市：6月2日～3日、郡山市：6月7日～8日、
さいたま市：6月9日～10日、静岡市：6月14日～15日、
京都市：6月15日～16日、周南市：6月28日～6月29日、
鹿児島市：6月30日～7月1日）

水道の維持管理に万全を期することを目的に、全国の水道関係技術者の方々622名の参加を得て「水道概論」、「水道維持管理」、「水質管理」、特別講義①「水道の耐震化～「水道の耐震化計画等策定指針」の改定～」、特別講義②「指定給水装置工事事業者研修テキスト」について研修を実施した。

第169回水質試験方法等調査専門委員会（6月13日）

正副委員長及び各部会長の互選を行い、委員長に安藤特別非営利活動法人水・環境分析支援ネットワーク理事長、副委員長に五十嵐国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部長が選出された。また、無機物部会長に林横須賀市上下水道局技術部浄水課主任、有機物部会長に小林国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部第三室長、微生物・生物部会長に小倉京都市上下水道局技術監理室水質管理センター水質第一課担当課長補佐が選出された。

続いて、各部会の懸案事項及び水道水質検査方法の妥当性評価ガイドラインの改訂について検討を行った。

第1回浄水場におけるリスクアセスメント（労働災害防止）の手引き策定専門委員会（6月13日）

はじめに、委員長の互選を行い、金子東京都水道局朝霞浄水管理事務所技術課長が選任された。

続いて、委員から各都市のリスクアセスメントの導入及び取組み状況について報告した。

手引きについては、大・中・小規模事業者まで活用できるもの、小規模浄水場、第三者委託、包括委託を手引きに反映させるなど方向性が示された。

第2回委員会以降は、手引き策定のために、浄水場での主要な作業を洗い出し、危険度の判定等を踏まえた素案を作成し、委員会にて審議することとなった。

水道事業事務研修会（経営部門、Aコース）（6月15日～17日）

水道業務に従事する事務系職員（水道歴概ね3年未満）の方々100名の参加を得て、「水道概論」、「水道経営」、「水道事業における会計実務の基礎」「会計実務～例題・演習～」、「水道料金」、「決算書の見方」について、経営の実務を中心とした研修会を実施した。

第704回抄録委員会（6月17日）

本誌9月号に掲載する外国文献の抄録内容等について審議した。

2018年第11回国際水協会（IWA）世界会議・展示会 第3回連絡調整会議（6月21日）

2018年に東京で開催されるIWA世界会議・展示会の開催準備を担当する企画、広報、協賛推進の各専門部会、及びセキュリティ対策特別部会から、現在の活動状況、今後の活動予定等について報告を行った。

また、開催準備に係る専門部会ごとの活動経費及び支出方法等について意見交換を行った。



平成28年度第2回理事会（6月23日）

尾崎理事長が議長となり、報告事項として「公益社団法人日本水道協会の会務」について事務局から説明があった。

続いて議案の審議に入り、第1号議案「公益社団法人日本水道協会第88回総会の運営」、第2号議案「会員の入会」が上程され、審議の結果、それぞれ原案のとおり決定した。



平成28年度第3回理事会（6月23日）

醍醐理事が互選により議長となり、第1号議案「代表理事の選定」が上程され、慎重審議の結果、吉田理事が代表理事に決定した。

次に、第2号議案「公益社団法人日本水道協会第89回総会の開催及び開催通知の送付」が上程され、審議の結果、原案のとおり決定した。

続いて、第3号議案「顧問の選任」が上程され、審議の結果、原案のとおり尾崎勝氏が顧問に選任された。



第88回総会（6月23日）

第88回総会が、砂防会館別館「シェーンバッハ・サボー」において、来賓、会員、関係者約470名の参加を得て、盛大に開催された。

開会式においては、日本水道協会を代表して尾崎理事長から挨拶があり、次いで厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部長（代読：宮崎医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部水道課長）、総務省自治財政局長（代読：石黒自治財政局公営企業経営室長）から来賓祝辞があった。



開会式



厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部長祝辞：宮崎医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部水道課長



総務省自治財政局長祝辞：黒石自治財政局公営企業経営室長



監査報告：飯島監事

開会式の後、定款の定めにより尾崎理事長が議長となり議事に入った。

第1号議案「役員の改選」について、事務局より提案資料に基づき新役員について説明があり、慎重審議の結果、原案のとおり新役員を決定した。次に、第2号議案「平成27年度公益社団法人日本水道協会会計決算の承認」について、事務局より提案資料に基づく詳細な説明があり、慎重審議の結果、原案のとおり決定した。

なお、第2号議案については、事務局の説明に続き監事を代表して飯嶋宣雄氏から監査報告があった。

次に、報告事項として「平成28年度公益社団法人日本水道協会会計予算」及び「平成29年度水道関係予算等の陳情」について、配布資料に基づく詳細な説明があった。

続いて、第3回理事会の審議結果について、事務局より説明があり、同理事会にて代表理事に選定された吉田新理事長より挨拶があった。次に本総会をもって退任する尾崎理事長より挨拶があり、本総会の議事を終了した。



新任挨拶：吉田新理事長



退任挨拶：尾崎理事長

議事終了後、「水道事業の技術継承と人材確保・育成について～水道事業を将来に引き継ぐために～」と題し、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授 滝沢智氏、東京都公営企業管理者・水道局長 醍醐勇司氏、矢巾町上下水道課主査 鎌田大樹氏、一般社団法人水道運営管理協会代表理事 水谷重夫氏をパネリストに迎え、フォーラム本協会波多野検査部長の進行により開催した。



総会フォーラム「水道事業の技術継承と人材確保・育成について～水道事業を将来に引き継ぐために～」



講師：（左から）滝沢東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授、醍醐東京都公営企業管理者・水道局長、鎌田矢巾町上下水道課主査、水谷一般社団法人水道運営管理協会代表理事

浄水場等設備技術実務研修会（東京会場第2回 6月21日～24日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々15名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに設備機器の保守・管理の実務について、研修を実施した。

第946回会誌編集委員会（6月24日）

本誌8月号の編集方針、投稿原稿の審査、新規原稿の取扱いについて審議した。

第110回水道 GLP 認定委員会（6月27日）

水道 GLP 認定について、大津市企業局（JWWA-GLP125）が新規に審議され決定された。

また、高知市上下水道局（JWWA-GLP085）が認定更新検査機関として、川崎市上下水道局（JWWA-GLP011）、下関市上下水道局（JWWA-GLP063）、（公財）秋田県総合保健事業団（JWWA-GLP112）が認定維持検査機関として、それぞれ審議され決定された。

水道事業事務研修会（経営部門、Bコース）（6月27日～7月1日）

水道業務に従事する事務系職員（水道歴概ね3年以上）の方々59名の参加を得て「水道経営」、「水道事業における公費負担のあり方」、「水道事業における財務会計（例題・演習）」、「水道料金・同演習」、「経営分析・同演習」、「水道事業における消費税及び地方消費税の会計処理」「水道事業における経営戦略の策定」について、経営の実務を中心とした研修会を実施した。

また、研修会初日及び最終日に行われたグループ別ディスカッションにおいては、活発な情報交換が行われた。

第38回認証審査委員会（6月28日）

品質認証センターに申し込まれた新たな給水用具、新素材の薬品について審議を行った。



JWWA と NSF との連携セミナー（6月30日）

日本において水道用製品を製造、販売するにあたり、水道法の水道用資機材や給水装置の基準に適合していることを確認する必要があるが、アメリカでは、どのような法律、基準があるのか、また NSF の認証を取得するには、どのような手続きをすれば良いのか、等について NSF（National Science Foundation）が講義を行った。



未納料金対策実務研修会（東京会場第1回：7月7日～8日）

水道料金徴収業務に携わる方々46名の参加を得て、未納料金対策について実務を中心とした研修会を実施した。

また、グループ別のディスカッションにおいては、活発な情報交換が行われた。